



宇都宮市立図書館にある

「明石志賀之助」に関する本



◆明石志賀之助について

『日下開山初代横綱明石志賀之助 すもうの街宇都宮が生んだ大力士』

(中村弘／著 随想舎 2012) 【K780/ア】

明石志賀之助は幻の力士か。今まで埋もれていた「上山三家見聞日記」を掘り所に、既存の文献・資料を検証する中で、実在した人物としての巨像が姿を現してきた。宇都宮が生んだ初代横綱の謎に迫る。

『日下開山明石志賀之助物語』

(中村弘／著 随想舎 2012) 【K780/ア】

同著『日下開山初代横綱明石志賀之助』を本編として、そこに掲載しなかった研究内容を集めたもの。志賀之助の周囲で起こった事件などを通して、志賀之助の生き様を筆者の想像を交えて描いている。

『江戸を生んだ男たち 初代横綱、明石志賀之助と家康重臣・本多正純』

(和氣良雄／著 文芸社 2014) 【913.6】

江戸幕府が開かれて間もなく、急増する住民たちに常に新鮮な魚を供給するため、幕府の文治派重鎮、本多正信・正純親子は明石の漁師たちを入植させる。さらに、江戸に流れ込む荒くれ者たちのエネルギー発散を狙い奉納相撲を興行。見事優勝したのが、その明石の漁師集団の一人、志賀之助であった。躍動する江戸を舞台に、伝説の初代横綱志賀之助と、本多親子の数奇な運命を描いた歴史小説。

『徳田浩淳著作選集 2 下野歴史物語』

(徳田浩淳／著 国書刊行会 1983) 【K200/ト】

物語でつづる明石志賀之助 (P21～33)。江戸で過ごした幼少期から、「横綱」の称号を得るまでを描いている。

『宇都宮のいしぶみ』(宇都宮市教育委員会社会教育課／編 1981) 【K202.1/ウ】

『宇都宮の旧跡』(宇都宮市教育委員会社会教育課／編 1989) 【K202.1/ウ】

蒲生神社に建てられている「日下開山初代横綱力士明石志賀之助碑」を紹介している。

『宇都宮藩・高德藩』

(坂本俊夫／著 現代書館 2011) 【213.2 K210/サ】

近世宇都宮の歴史について、詳細な研究をもとに読みやすくまとめたもの。宇都宮ゆかりの人物(1)のコーナー(P98)で、明石志賀之助を紹介している。

『栃木県謎解き散歩（文庫）』

（福田三男／編著 新人物往来社 2012）【291.32/フ】【K290/フ】

P256～257 板橋雄三郎／著「初代横綱・明石志賀之助と二代横綱・綾川五郎次」

『探訪栃木の名力士』（板橋雄三郎・青柳文男／著 下野新聞社 1994）【K280/イ】

2年の取材調査をもとに、栃木県の力士を一人ずつ紹介している。明石志賀之助は、「幻の日下開山」と題して、その実在性についても検証が試みられている。

『下野の四大相撲伝』（宇賀神利夫／著 新日本政治経済研究会 1977）【K780/ウ】

栃木県の力士の中で、特に大きく活躍した4人、明石志賀之助・綾川五郎次・有土山八八・栃木山守也を取り上げている。

◆相撲あれこれ

『大相撲の魅力 相撲アナが語りつくす』（銅谷志朗／著 心交社 2009）【788.1/ド】

興味深い相撲の歴史から、今も記憶に残る名勝負、大ベテラン相撲アナウンサーだからこそ取材できた最新情報まで、大相撲の魅力を余すところなく凝縮。明石志賀之助は、歴代横綱力士一覧に、初代としてその名を載せている。

『大江戸相撲列伝 いまはむかしすもうばなし』

（石ノ森章太郎／著 清流出版 2008）【788.1/イ】

石ノ森章太郎が描いた5作の漫画。力士をテーマにした作品ではこれが全て。表題の3作品の他、『さんだらぼっち』の「野暮天」、『佐武と市捕物控』の「裸虫」を収録している。

『大相撲雑学クイズ場所』（タルタルーガ社編集部／編 2011）【788.1/タ】

読めばあなたも相撲通。懐かしい名力士や名勝負、大相撲を支える人たち、土俵や番付、相撲の歴史と現在など、大相撲についての雑学クイズ90問を収録。相撲界に関する豆知識が増え、相撲道への理解が深まる1冊。

『大相撲あなたの知らない土俵の奥』（長山聡／著 実業之日本社 2011）【788.1/ナ】

元々は五穀豊穡を願う神事として始まった相撲。それがいかにして現代まで伝統を継承し、続いてきたのか。歴史をひもとくことで、大相撲の奥深さとこれからの相撲界の問題点が見えてくる。

館内閲覧のみの資料も含まれています。

この他にも資料がありますので、図書館職員にお気軽にご相談ください。

宇都宮市立中央図書館

〒320-0845

宇都宮市明保野町7番57号

TEL : 028-636-0231 FAX : 028-639-0740

9:30～19:00（金曜休館）
